

観 光 交 流 拡 大 対 策 特 別 委 員 会 記 録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">平成28年10月13日</p> <p style="text-align: right;">開 会 午前 9 時 5 8 分 閉 会 午前 1 1 時 3 7 分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">第2会議室</p>	
3 出席者	委 員	<p>委員長 駒 田 誠      副委員長 平 岩 正 光          委員 玉 田 和 浩      尾 藤 義 昭      伊 藤 正 博          足 立 勝 利      伊 藤 秀 光      野 島 征 夫          脇 坂 洋 二      太 田 維 久      国 枝 慎 太 郎          山 田 優      布 俣 正 也      中 川 裕 子</p>
	執 行 部	<p style="text-align: center;">別 紙 配 席 図 の と お り</p>
4 事務局職員	<p>係長      佐 橋   誠      主事      後 藤   有 里 加</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 長良川流域の地域資源を活用した観光振興に関する取組について  2 その他	

## 6 議事録

### ○駒田誠委員長

ただいまから、観光交流拡大対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、本年度の4つの調査項目のうち、「宿泊滞在型観光の更なる展開」、「新たな観光資源の発掘」、「観光客の受入環境整備」について、ご協議いただくため開催するものである。

本日は、参考人として、特定非営利活動法人ORGANの理事長蒲勇介さんにご出席いただいている。「長良川流域の地域資源を活用した観光振興に関する取組について」と題して、これまで蒲理事長が、清流長良川の流域周辺で取り組まれてきた観光振興に関する取組についてご説明を行っていただく。

NPO法人ORGANは、「長良川おんぱく」をはじめとする、長良川流域の観光地づくりの推進に取り組まれている法人である。同法人の蒲理事長は、「長良川おんぱく」の中心的役割を担っている方であり、また、岐阜大学の非常勤講師や地域協学センターの現地コーディネーターなど、幅広く活動されている方である。

また、今年度は、岐阜県が長良川上流・中流域の岐阜市、関市、美濃市、郡上市と連携して取り組んでいる観光関連事業にも携わっている。

本県の観光交流拡大に向けた検討を行う上で、蒲理事長がこれまでに取り組まれてきた取組みを学ぶことは大変参考になると思う。

なお、これから説明をお願いしたいと思うが、質疑は、説明終了後をお願いする。

また、今回の執行部職員の出席については、重点調査項目を担当する部局を中心に、出席いただいているので、あらかじめご了承ください。

それでは、これより説明を行っていただきたいと思うが、まず最初に、執行部を代表して、小原壽光観光国際局長からご挨拶をいただきたいと思う。

(執行部 小原観光国際局長 挨拶)

それでは、特定非営利活動法人ORGAN蒲勇介理事長に説明をお願いしたいと思う。

(参考人 蒲勇介理事長 説明)

### ○駒田誠委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

### ○中川裕子委員

配布された、長良川おんぱくガイドブックに掲載された体験プログラムは、どれも非常に興味深い。こういった地元でも知らないような地域資源をどのように発掘し、集めたのか。

### ○蒲理事長

長良川おんぱくは、平成23年に100のプログラムでスタートしたが、これは他のエリアと比較しても多い。長年、まちづくりに取り組んできた経験から、地域のキーパーソンとのつながりがあり、こうした人達に声掛けをし、100のプログラムを実現した。1年目は、5人のスタッフがプログラムのプロデューサーに深く関わってきたが、膨大な時間と経費がかかるため、2年目以降は、公募制とした。行政や観光協会の協力、SNSの活用が奏功し、プログラム数は150まで増えた。現在は、プログラム提供者や顧客

が参加するワークショップを年9回開催し、相互に忌憚のない意見を出し合うことで、プログラムのブラッシュアップを図っている。

○脇坂洋二委員

長良川おんぱくガイドブックの中に桑名市のプログラムがあるが、その理由は。

○蒲理事長

長良川おんぱくは、長良川の源流から河口まで広域のつながりを作りたいという思いから始めたところ。桑名側にも上流とのつながりを持ちたいとの意向があり、相互の思いが合致し、平成26年から掲載を開始し、現在では10程度にまでプログラム数が増えている。

○太田維久委員

名古屋市など近隣からの呼び込みも重要であると考えているが、近隣への働きかけについては、どのように展開していく予定か。

○蒲理事長

長良川おんぱくの名古屋向けプロモーションとしては、メディア回りとガイドブック等の配布を中心に行っている。メディア回りでは、テレビでも取り上げられるようになり、効果が表れていると感じている。一方、ガイドブックについては、毎年2万部発行しているが、最近では、名古屋で配る余裕がなくなっている。来年度はガイドブックのつくりを工夫することで部数を増やし、名古屋でのPRを再開したいと考えている。また、県及び流域4市が主体となった長良川流域観光推進協議会において、体験プログラムと周辺の地域資源を組み合わせ、周遊観光につなげる取組みを行っているところであるが、長良川おんぱくとの相乗効果により、名古屋や尾張の方により多く参加してもらうためのプロモーションが必要であると考えている。

○布俣正也委員

長良川おんぱくの参加者は、こういった属性か。親子での参加は多いのか。

○蒲理事長

親子で参加したいとのニーズは高いが、実際の参加は少ない。30～40代で東海三県の都市部在住の働いている女性の比率が最も高く、夫婦や友人と、若しくは1人で参加するケースが多い。

○布俣正也委員

長良川おんぱくの参加者が鶴飼や金華山等、他の観光地に立ち寄る傾向はあるか。

○蒲理事長

参加者は、目当てのプログラムに参加するという目的がはっきりしているため、ついでに観光を楽しむという傾向は薄い。こうした傾向を課題と捉え、参加者に周遊してもらう取組みとして、今年度から長良川流域観光推進協議会において体験プログラムと観光地を巡るスタンプラリーを開始している。

○山田優委員

長良川流域の観光資源を活用した取組みが成功した後に、他の地域でも取り組みたいという意向はあるか。

○蒲理事長

長良川流域以外の地域で、主体的に携わっていく意思はないが、ノウハウを伝えるという形で協力を

していきたいと考えている。実際に、養老町や大垣市、飛騨市、美濃加茂市と加茂郡に、おんぱく手法の導入に向けたノウハウを伝授しているところである。

○駒田誠委員長

御意見も尽きたので、これをもって、調査項目については終了する。

続いて、その他の案件として、執行部から報告がある。

(執行部 古田観光企画課歴史観光推進監 説明)

○駒田誠委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

(発言する者なし)

○駒田誠委員長

この際、他に何かご意見等あるか。

(発言する者なし)

○駒田誠委員長

御意見もないので、これをもって本日の委員会を閉会する。

# 観光交流拡大対策特別委員会 配席図

平成28年10月13日(木) 10:00～  
議会西棟3階 第2会議室

--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

桑田 観光企画課 海外戦略室長	古田 観光企画課 歴史観光推進監	井深 観光誘客課長	北川 観光国際局副局長	小原 観光国際局長	崎浦 商工労働部次長	堀 観光企画課長	原 国際課長	参考人席
-----------------------	------------------------	--------------	----------------	--------------	---------------	-------------	-----------	------

